

埼臨技だより

発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会

〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7 TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095

URL:<http://www.sairingi.com/> 携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 平成26年度定時総会が開催される

平成26年5月24日(土) 午前10時より、大森東急インにおいて日臨技定時総会が開催された。総会の開催に先立ち、名誉会員の紹介がなされ、引き続き永年職務精励者表彰および日臨技会長賞の授与が行われた。永年職務精励者表彰は1,123名の受賞者について支部単位で代表者を選任し賞状が授与された。また、会長賞は臨床検査技師として活躍し、臨床検査を通じて国民の医療および公衆衛生の向上に大きく寄与した功績から千葉県の大澤進氏が受賞した。長年にわたり日臨技、地区臨技、地域医療を支えてくださった方々に敬意を表したい。

総会は、宮島会長の挨拶、議長、資格審査・議事運営委員、書記、議事録署名人の選任の後、議長の開会宣言により開催された。



議案審議

議事は、平成25年度監査報告の後に、第一号議案である平成25年度事業・決算報告がなされ、執行部の丁寧な説明・報告により、議決を左右するような質問も出ず賛成多数で承認された。第二号議案は名誉会員の推薦についてで、当会および日臨技の元会長であられる小崎繁昭氏が推薦されたが、採決の前に満場の拍手となり議長は一拍おいてから形式に則り挙手採決を促し満場一致での承認となった。第三号議案は平成26・27年度の理事選任についてであり、理事候補者一名毎に審議がなされ全員が承認され、各自は

理事の就任を承諾した。今回は、当会から岡田茂治理事(総務部長)が関甲信支部の推薦により新理事に就任となった。5万人を超える団体の理事として、日臨技はもとより、関甲信、埼臨技も牽引していただけるよう活躍を期待したい。

なお、当会副会長の津田執行理事は、本総会集結時に理事退任となった。日臨技が一般社団法人となり一番大変だった一期二年を職場や埼臨技の要職をこなしつつ勤め上げたことに深い敬意を表する。

予定された議題は全て承認され、総会役員の解任、議長の退任をもって、定時総会は終結となった。その後、次年度の日本医学検査学会長の一般社団法人佐賀県臨床検査技師会の百田浩志会長より学会のPRがあり、続いて、本総会をもって退任される理事が前列に並び、会場からの温かい拍手のもとで役員任期が満了となった。

最後に、新役員が前列に整列し、宮島喜文氏が役員を代表して挨拶を行い全ての日程が無事終了した。
(文責：神山清志)



新任理事の皆様



日臨技理事に就任して



埼玉県立がんセンター 岡田 茂治

平成26年5月24日（土）開催されました平成26年度一般社団法人日本臨床衛生検査技師会定時総会において、平成26・27年度理事としてご承認をいただきました。

定時総会后、理事会が開催されました。宮島会長のもと理事会は全国から選任された、そうそうたるメンバーで鋭い発言に圧倒され、何をしたらいいか右も左もわからず圧倒されました。しかし、臨床検査技師の地位の向上や給与面での待遇向上、他のコメディカルに負けない社会的知名度や業務独占をめざす法改正の必要性、学術的レベルのアップや認定制度の拡充、新たな医療分野への進出など、とても前向きで懸命に取り組んでいることを肌で感じました。私の業務分担は学術部門で医学検査や日臨技技術教本シリーズの出版を担当する「出版ワーキング」、日本医学検査学会の運営等について学会運営マニュアルや日臨技企画の発案を行う「学会組織委員会」、「64回学会(佐賀県担当)運営部会」、「65回学会(兵庫県担当)運営部会」のメンバーとなりました。業務引継ぎでは「日臨技理事は会員のしもべ」、「会員の声を広く日臨技へ届けることが仕事」「理事会で発言しない奴は要らない」等の熱い指導も受けました。理事会は2か月に1回ペースで、日臨技事務所で開催されます。まだまだ微力ではありますが、すこしでも会員のためになる仕事をしたいと思っていますので日臨技へのご要望等があればどうぞご意見を下さい。

宮島会長、先輩理事の指導の下、新任理事として指導を受けながら頑張っていきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

埼臨技事務所の老朽化について

埼臨技事務所は昭和42年に建築された物件を昭和60年に購入しました。現在、築48年の経過に伴う老朽化により多くの不都合が発生しております。現況についてご報告いたします。

- ①屋根が老朽化しており二階の雨漏りが激しい
- ②アンテナが倒壊し瓦を突き破った
(撤去済：瓦は補修不可)
- ③二階の床が傾いている
- ④各廊下がきしみ、鶯張りの状況
- ⑤外壁の一部が、剥がれ落ちた(応急補修済：写真1、2)
- ⑥ガス漏れを起こした(緊急修繕済)
- ⑦上水道の内・外部配管が詰まり、出なくなった(暫定引き込み修繕済：写真3)
- ⑧使用できないブレーカーや電気スイッチがある
- ⑨一級建築士による耐震一般診断で「倒壊の危険性が非常に高い」となった

等々の状況であり早急な対策が必要です。

理事会では公益法人移行後、直ちに「事務所改装検討委員会」を設置し、移転、建替え、リフォーム、賃貸の場合のメリットとデメリットについて検討を行いました。どの方法を取っても多額の費用がかかる大規模な事業であり、これから数十年先までの重要な問題です。昭和60年当時の当事務所購入に当たっては、購入資金を工面するためのバザーの開催や会員からの寄付を募りました。また、当時の会長が個人の財産を担保とし、理事全員が連帯債務者となり資金を借り入れた経緯もあります。よって、埼臨技事務所は当時の役員をはじめとする会員の協力があって購入できた会員の貴重な財産です。

「事務所改装検討委員会」では、昨今の状況を鑑み、会員・賛助会委員に金銭的な負担をかけない方法として、修繕基金および土地を担保とした借入額を限度としたリフォーム案を最善策とした検討結果を会長に答申しました。本件は、会員・賛助会委員の大切な資産である事務所問題についてです。理事会が最終判断を行う前に、会員のご意見も取り入れ、理解を求めすすめていきたいと思っておりますので、メールでご意見・ご希望をいただければと思います。

送付先メールアドレス：sairingi@sairingi.com



写真1



写真2



写真3

(総務部長：岡田茂治)

第43回埼玉県医学検査学会のお知らせ

— 学術部だより —

毎年、研究班という立場から学会運営に関わっておりますが、今年は実行委員も拝命しまして、例年以上に力が入っているところでございます。特に私に関わっている、学会で準備中の企画をご紹介します。

まずはSkill up projectというしゃれた名前をつけた企画ですが、いわゆる研究班セミナーです。3つのテーマを計画中で、そのうちの1つは発表も司会も一般検査、細胞検査、病理検査、生理検査の4研究班で担当します。演題は、ずばりピットフォール！ 要は、間違いやすい・勘違いしやすい症例を取り扱ってセミナーで行う企画になっています。企画自体もなかなか困難なテーマですが、有意義な時間を提供するために、各分野の専門家がさまざまな症例を検討しています。さらに、当日は受講者がオーディエンスで参加出来るという趣向も凝らします。研究班が送る検査の「つ・な・



が・り」を楽しみにお待ちしております！

そして、体験コーナーでは動脈硬化を診る検査機器で測定を行います。使用する装置は超音波と加速度脈波を予定しています。ですが、一般的に検査室で扱うものとは少し異なり、非常に簡便・迅速に結果を得られる装置を用意します。興味のある方は、ぜひ体験しに来ていただければ幸いです。

まだまだやることは山積みですが、満足のいく企画となるようガンバります！

(文責：野本隆之)



第43回埼玉県医学検査学会 一般演題募集！

- 演題締切日：平成26年7月15日（火）
- 抄録締切日：平成26年8月18日（月）

第43回埼玉県医学検査学会が12月21日(日) 大宮ソニックシティで開催されます。臨床検査技師にとって最も身近な学会で、発表してみませんか？演題登録は日臨技総合情報システム（JAMTIS）で受付しています。登録方法は第43回埼玉県医学検査学会ホームページに掲載しています。ご確認いただければと思います。

ここで、初めて学会参加を考えている方のために、わたしの抄録の書き方をご紹介します。抄録をただのタイトルのように扱って、「内容は発表で！」みたいな方も見かけますが、それは良い抄録ではありません。抄録は公的文書としてそのまま実績になるものだからです。

んだ新潟を後にしました。

来年は福岡(佐賀県主催)で開催される日本医学検査学会。
次回もまたエントリーしたいので、明日からまた演題探しに奮闘しなければと思いました。



学会発表をおこなって

学校法人北里研究所 北里大学メディカルセンター
慎島 碧

先日、新潟で行われた日本医学検査学会にて「埼玉県における髄液検査の現状報告」という演題で発表をさせていただきました。

はじめは2013年6月、班会議で話題が出たことでした。あれよあれよという間に話は進み、アンケートが実施され、集計し…(この辺りで漸く、事の重大さに気が付きましたが、もう後戻りは出来ません。)

抄録の締め切りが迫り、あっという間に学会当日になってしまいました。発表は2日目の午後であったため、1日目は聴講と今回唯一の観光(酒蔵見学)に行くことになりましたが…実はその時点でもスライドの合格点が貰えておらず、不安を抱えながらの観光になりました。しかし、そんな時でも新潟の日本酒はどれも美味しく、ついつい飲み過ぎてしまいました。美味しいお酒をたっぷり頂いた後は、班員の皆様から熱いご指導もたっぷり頂きました。

思い返すと、当日よりもこの予演会の方が緊張していた様に思います。そのお蔭で翌日の発表は、無事に終えることができました。

最後まで不安でいっぱいだった学会発表ですが、沢山の事を学び、経験することが出来た良い思い出となりました。

ご指導いただいた皆様、発表に向けて動いていた11ヵ月間、多大なるご迷惑とご心配をお掛けしました。お忙しい中、本当にありがとうございました。



各研究班の研修会報告を致します。

テーマ ①2014年CLSIドキュメントの主な変更点 ②平成25年度埼玉県・埼玉県医師会 臨床検査精度管理事業報告と解説(微生物)

主催 微生物検査研究班

実施日時：平成26年 4 月17日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ604号室 点数：専門教科ー20点

講師：①池延 貴史（シーメンスヘルスケア・ダイアグノティクス株式会社）

②永野 栄子（獨協医科大学越谷病院）

前田 友子（越谷市立病院）

川俣 大右（株式会社戸田中央臨床検査研究所）

荻野 毅史（済生会川口総合病院）

参加人数：会員64名 賛助会員10名

出席した研究班班員：永野栄子 古畑健司 金田光稔 砂押克彦 小西光政 渡辺典之

荻野毅史 佐藤香里 酒井利育 牧俊一

研修内容・感想など

講演1は例年通り、本年度の最初の研修会で、CLSIの主な変更点について、池延氏に解説していただいた。今回は、細菌では初めて用いられるカテゴリー‘SDD’、新たに設けられたAppendix Eや、腸内細菌科のブレイクポイントの変更点についての解説が中心になった。

‘SDD’の登場等によって、我々も抗生剤の用法・用量についての知識を今以上に求められるようになってきており、勉強の必要性を感じた。

講演2は、平成25年度埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告と解説をテーマに、フォトサーベイ、同定検査、薬剤感受性検査、グラム染色の部門ごとで4人の担当者に集計結果報告と評価基準、設問の解説をしていただいた。

各部門で評価Aが90%以上で良好な結果であった。正解率の低かった設問では同定検査で*Salmonella Enteritidis*を回答できなかった施設があり、国内の分離状況や感染症法も含めて解説していただいた。また、薬剤感受性検査では、ディスク拡散法で阻止円の測定方法に問題があり、反射光および透過光による測定方法を解説していただいた。グラム染色は、評価対象外であるが推定菌の正解率が細菌検査室のない施設で低かった。グラム染色を実施する以上、推定菌まで報告できるようにトレーニングする必要があると感じた。

毎年、精度管理事業講評会で結果報告しているが細かい内容まで解説することができないので、今後も本研修会での解説を継続して実施する必要があると思われた。

(文責：牧俊一・渡辺典之)

テーマ 非上皮細胞類

主催 一般検査研究班

実施日時：平成26年 4 月18日 19時00分～21時00分

会場：浦和コミュニティーセンター 第15集会室 点数：専門教科ー20点

講師：竹山梨枝子（白岡中央総合病院）

深田 茂則（埼玉医科大学病院）

参加人数：会員82(申請中10名含)名 賛助会員1名

出席した研究班班員：室谷明子 山本英俊 山浦久 深田茂則 小関紀之 竹山梨枝子
榎島碧 土屋貴絵 川音勝江

研修内容・感想など

今年度最初の研修会は尿沈渣検査法2010において、尿沈渣成分の分類で最初となる「非上皮細胞類」をテーマにして講義していただいた。はじめに竹山技師より定性検査をふまえた「血尿の見方」について、尿検査の流れにそったかたちで説明がすすめられた。外観や定性検査の注意点について、赤血球形態や潜血反応と尿沈渣赤血球の乖離、赤血球と間違えやすい成分等についての解説が行なわれた。血尿診断ガイドラインの話もあり、赤血球形態の報告は一般検査側から臨床側に伝えられる重要な情報の1つと考えられた。

続いて深田氏より「知っておきたい白血球・大食細胞」について、アンケート結果に基づいた情報を加え説明していただいた。白血球反応や白血球は尿路感染症の指標となり臨床的に重要となるが、試験紙反応による偽反応やコンタミネーション、白血球と間違えやすい成分があることについて解説がなされた。大食細胞は尿沈渣検査2010より血球類に分類され大食細胞円柱の分類も加わったため注目のテーマであったと思われるが、単独だけでなく円柱内や卵円形脂肪体のもなど多くのスライドがあり、大食細胞の細胞像を認識できたのではないかと思われた。深田氏により提示されたアンケート結果では臨床側で重要な成分は1位赤血球、2位白血球であった。今回の研修内容を理解し日常の検査に生かしていただきたいと感じた。

(文責：川音勝江)

テーマ ①平成25年度 埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告(血清) ②CH50の基礎的な話 — CH50とC3、C4の関係を理解する —

主催 血清検査研究班

実施日時：平成26年 4 月22日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ604号室 点数：基礎教科ー20点

講 師：講演1：藤代 政浩（獨協医科大学越谷病院）

講演2：長尾 健次（和光純薬株式会社）

参加人数：会員23名 賛助会員10名

出席した研究班班員：齊藤雅一 佐野悦子 大島まり子 相坂由里子 鈴木淳子 持田和紀
庄司和春

研修内容・感想など

平成25年度埼玉県医師会精度管理事業報告(血清部門)を藤代技師にしていただいた。血清部門では、同じ項目でも使用機器により測定値が異なるため、例年通り回答締め切り後にメーカーへ試料を送付し、測定していただき目標値としている。免疫グロブリン、AFP、CEA、PSAはA、B評価のみで良好な結果であった。しかし、各項目ともメーカー別の集計では収束していても、測定値のプロットではどうしても広範囲にわたってしまう。各メーカーの歩み寄りにより、生化学項目のように標準化が実現できないものかともどかしさを感じた。また、今回も試料の取り違いや、記入のミスと思われる回答が散見されたので、注意していただきたいとのことであった。

次に、補体価について長尾氏に講演していただいた。補体はC1～C9までがあり、補体経路には、古典経路、第二経路、レクチン経路がある。古典経路は抗原抗体複合物から補体の活性化が開始されるが、第二経路とレクチン経路は微生物の表面により活性が惹起される。いずれの経路も最終的には膜障害性複合体を形成し溶菌を引き起こす。それだけでなく活性経路で生成される補体の分解産物が白血球の動員、食菌の促進、血管透過性亢進作用を持ち、免疫の一役を担っている。測定項目として主なものはCH50、C3、C4があり、CH50が低下している場合、

C3、C4のいずれか、または両方が、正常か低値かによりある程度まで疾患の絞り込みが可能との事であった。また、和光純薬のCH50測定の原理についても詳細な説明があった。試薬には細胞膜と似た構造であるリン脂質二重層が球状になったリポソームを用いている。リポソーム表面にはハプテンがあり、内部には酵素が詰まっている。補体はハプテンにより活性化し、リポソームに穴をあけ、漏出した酵素活性を測定するというものであった。この方法により煩雑な用手法から自動化が可能となった。

(文責：庄司和春)

テーマ **新人・当直者・ベテランも困らないように、ポイントを押さえよう、もう分析器には振り回されない！**

主催 血液検査研究班

実施日時：平成26年 4月24日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ601号室 点数：基礎教科－20点

講 師：演題1：平成25年度血液検査精度管理報告

講師：血液研究班員

演題2：血液検査機器の基礎

講師：萩原 朋子（シスメックス株式会社北関東支店プロダクト営業課）

参加人数：会員55名 非会員 8名

出席した研究班班員：星孝夫 網野育雄 根岸永和 羽鳥浩司 田中正 橋口恵子 原誠則

圓田和人 岡安幸子 軍司雅代

研修内容・感想など

平成25年度の埼玉県精度管理の血算試料は、人工血に加え、昨年に引き続き人全血も試料に加えサーベイを実施した。試料により変動係数に差が生じる傾向が見られ、必要に応じて補正係数を求め補正後評価するなどの対応は一部の機種に限定された。人全血のデータは昨年以上に収束しており、A評価が増えるなど、評価の向上につながった。

フォトサーベイについては、教科書的にはっきり段階の特定出来る細胞を提示した結果、今年度は回答が収束した。また、顆粒球系の幼若～成熟細胞の見方、核クロマチン（ユークロマチン・ヘテロクロマチン）の観察方法に至るまで解説された。

血液検査機器の基礎－血算機と凝固機器－については、自分たちの普段使用している機器が、どういう原理でカウントを行っているのか、EDTA依存性血小板減少症や、フィブリン塊によるPLT偽高値、また、薬剤の影響により血小板がサンプリング異常となる例（尿毒症・糖尿病で起こりやすく、対処法としては上清を置換するか、希釈測定する。）等どれも検査室に帰って即！活かせる内容であった。

凝固系については、各機種の測定原理説明、また異常値が出た時の確認点、対処法等が解説された。

異常値データに遭遇した時、検体や機器の問題、患者情報（採血・投薬）が要因となり、多忙な業務の中でそれらを解決するためには、研修会へ参加して知識の引出しを増やしていくことは大変重要であると思われた。

(文責：橋口恵子)

平成26年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第2回 理事会議事録

日 時：平成26年 5月 8日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家 7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事)砂川 津田 神山 前原 矢作
岡田 奈良 猪浦 長岡 伊藤
島村 松岡 小島 濱本 藤井
長澤 小関 茂木 小山 山口
野瀬

(監事)遠藤 細谷

欠 席：(理事)高嶋

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は21名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、砂川進会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告(平成26年4月11日～平成26年5月7日)

4月11日(金)平成26年度公益社団法人第1回理事会会：砂川、津田、神山、前原、矢作、岡田、奈良、猪浦、長岡、伊藤、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、小関、小山、野瀬

4月15日(金)第43回埼玉県医学検査学会第7回実行委員会：岡田、小島、長岡

4月28日(月)さいたま市法務局にて総会議案書確認：神山

4月28日(月)三役・事務局会議：

砂川、津田、神山、前原、矢作

5月6日(火)業務監査：

島村、松岡、小島、神山、遠藤、細谷

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1)第55回全国国保地域医療学会に後援することとなった。

会 期：平成26年10月2日(金)・3日(土)

会 場：大宮ソニックシティ

1)第22回埼玉県糖尿病教育セミナーに後援することとなった。

会 期：平成26年 7月 7日(土)

会 場：埼玉会館

2 総務部

1)「埼臨技だより」第420号、5月15日発行予定

3 事業部

特になし

4 学術部

1)埼臨技会誌Vol.60 No.4、5月15日発行予定

2)第25回首都圏支部・関甲信支部合同一般検査研修会開催案内について

3)平成25年度埼臨技会誌優秀論文賞について
埼臨技会誌 第60巻3号 (Vol.60 No.3 2013)
分 類：原著

「臨床検査センターにおける血液培養陽性検体のグラム染色による菌名判定の精度に関する研究」

江端 晃子

(株式会社アムル 上尾中央臨床検査研究所)

4)研究班・理事合同会議開催について

日 時：平成26年 5月27日(火)

19：00から

会 場：浦和コミュニティセンター
第15会場 (パルコ9階)

5 精度保証部

特になし

6 会計部

1) 5月6日、業務監査を行った。

2)平成26年度会費124名620,000円、入会金12名12,000円、再入会金7名、合計639,000円の入金があった。

3)株式会社サンメデイアより、昨年度許諾料として1,256円の入金があった。

7 精度管理委員会

特になし

8 一都八県会長会議

特になし

9 日臨技関甲信支部

特になし

10 第43回埼玉県医学検査学会

1) 4月15日、第7回実行委員会を開催した。

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

1)会員動向(会費納入済)(平成26年度分)

- 会員数 2,324名
(新入会員 38名[平成25年度会員数2,306名])
賛助会員 12社(4月3日現在)[平成25年度 72社]
平成26年 4 月30日現在
- 2 総務部
1) 第43回埼玉県医学検査学会研究班セミナー
企画協力依頼について
- 3 事業部
特になし
- 4 学術部
特になし
- 5 精度保証部
特になし
- 6 会計部
特になし

- 事業部
特になし
- 学術部
特になし
- 精度保証部
特になし
- 会計部
特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

IV. 議事の経過の概要およびその結果

事務局

1. 平成26年度定時会員総会について
1) 平成25年度決算について
2) 理事の選任を議案に追加することについて
上記について、砂川会長より発言があった。これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で承認した。
2. 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会平成26年度第1回定時総会への出席について
砂川会長より標記の議案について発言があった。これを受け理事会審議の結果、砂川長、津田副会長、神山副会長、岡田総務部長の4名が出席することを、出席理事全会一致で承認した。
会 期：平成26年 5 月24日(土)
10時から12時まで
会 場：大森東急イン5階
「フォレストルーム」
3. 埼臨技事務所の家屋調査結果について
神山副会長より標記の議案について、家屋調査士からの調査結果をもとに極めて危険な状態のため早急にリフォームを行いたい。また、移転、建て替えは現在の資金・資産を考えると困難であるとの発言があった。これを受け理事会審議の結果、6月8日(日)にリフォーム・建て替え会議を開催することを出席理事全会一致で承認した。

総務部

特になし

求人案内

- 医療法人財団健隆会 戸田中央総合健康管理センター
採用条件：臨時職員
連絡先：048-445-1108 内線505
総務課 丹野
- 医療法人福島病院 本庄総合病院
採用条件：正職員
連絡先：0495-22-6111 内線147 総務課 立石
- 医療法人財団健和会 みさと健和病院
採用条件：臨時職員
連絡先：048-955-7171 内線9113
検査課 伊藤
- 埼玉県立がんセンター
採用条件：育休代員
連絡先：048-722-1111 内線2112 総務部 豊田
- 株式会社ピーシーエルジャパン 病理・細胞診センター
採用条件：正職員 臨時職員
連絡先：049-234-7310
総務部 採用担当 古田島
- 川口市立医療センター
採用条件：臨時職員
連絡先：048-287-2525 庶務課 漆山
- 医療法人泰一会 飯能整形外科病院
採用条件：正職員
連絡先：042-975-7575 総務・竹田
- 獨協医科大学越谷病院
採用条件：育休代員
連絡先：048-965-4954 検査部 柴崎(業務について)
048-965-9138 職員課 高際(事務的なこと)

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

あとがき

高速道路での道中は、結構疲れるものだが、素晴らしい景色に出会うと、疲れが癒されたりする。

私には中央高速道路の上り線に、お気に入りの景色がある。

そこは、恵那山トンネルを出て少し走った所にあり、急な坂道をカーブに沿って登っていくと、車窓から遠くの山波と空だけが視界に入ってくる。

つかの間ではあるが、飛行機に乗って離陸しているような感覚に浸れる場所である。

「中央フリーウェイ・・・この道はまるで滑走路 夜空につづく」つい口ずさんでしまう。

そしてその坂道を登りきったところに阿智PAがある。

岐阜の実家からの帰り道で、両親との別れに後ろ髪をひかれ、長い恵那山トンネルでさらに気持ちが沈むのだが、トンネルを抜けてこの景色と感覚を堪能し、阿智PAでお土産などを物色しているうちに、スイッチが徐々に自分の生活モードへと入れ替わってくる。

皆さんも滑走路を見つけてみませんか。高速道路での楽しみが1つ増えることでしょう。

(伊藤 記)

